

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：タイ	案件名：人口・リプロダクティブヘルス
分野：保健分野	援助形態：第三国集団研修
所轄部署：アジア一部インドシナ課	協力金額：
協力 期間	1999～2003年度
	先方関係機関：マヒドン大学人口社会調査研究所（IPSR） 日本側協力機関：
他の関連協力：	
<p>1-1 協力の背景 人口・リプロダクティブヘルスは、人口計画の必要性が高まり、HIV/AIDSの蔓延が広がる中で、注目を集めていた。また、1994年の国際人口開発会議（ICPD）では、複雑化・深刻化する人口問題に対応するため「行動計画」が参加各国により採択されたが、その実施のためには、各国の能力の習得・向上が必要である。具体的には、開発途上国での政策形成やリプロダクティブヘルスに係わるプログラムの計画立案や評価のキャパシティビルディング（能力開発）が重要だと考えられた。99年5月にタイで事前調査を行い、一連の議論の中で、人口計画およびリプロダクティブヘルスの調査についてJICA第三国研修を利用した研修コースについての枠組みが検討された。日・タイ両政府とも、研修コースの成功のために、望ましい方策がとられるべきであるとの意見で合意した。合意に基づき、我が国の技術協力とタイのDepartment of Technical and Economic Cooperation（DTEC）による支援のもと、マヒドン大学人口社会調査研究所（IPSR）が99～03年度の間、研修コースを毎年一回開催することになった。</p>	
<p>1-2 協力内容 アジア・アフリカ諸国に人口・リプロダクティブに関する知識・技術を普及し、深刻化する人口問題に対応するため、タイIPSRにおいて研修を行う。</p> <p>(1) 上位目標 研修参加者が自国の人口計画・リプロダクティブヘルス分野の状況改善に貢献する。</p> <p>(2) プロジェクト目標 人口計画・リプロダクティブヘルス分野で、学問的知識を提供するとともに、より高度な人材育成を行う。</p> <p>(3) 成果 1) 研修参加者が人口計画・リプロダクティブヘルス分野の諸問題に関して知識を会得する。 2) 研修参加者が人口計画・リプロダクティブヘルス分野の業務に必要な定性的、定量的調査手法を理解する。 3) 研修参加者が会得した調査手法や知識を自国の人口・リプロダクティブヘルス分野における計画や政策の立案に応用することができる。</p> <p>(4) 投入 日本側： 研修経費 0.23億円 相手国側： 研修講師 24名／年 施設・機材提供 研修経費 0.041億円</p> <p>(5) 研修参加国 インドネシア、フィリピン、カンボジア、ラオス、ベトナム、ミャンマー、中国、ブータン、バングラデシュ、ネパール、スリランカ、チリ、エチオピア、ウガンダ、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ</p>	
2. 評価調査団の概要	
調査者	タイ事務所 次の3名に委託 団長・総括：Dr.Marc Van der Putten, チュラロンコン大学教授 リプロダクティブヘルス分野：Ms. Usanee Kristanavarin, IC Net Thailand Co. Ltd 人口計画分野：金原 倫子 IC Net Thailand Co. Ltd
調査期間	2003年2月4日～3月21日
	評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要	
3-1 評価結果の要約	
<p>(1) 妥当性 事前調査団の報告書によると、ICPDの行動計画を実現するため、研修参加国であるアフリカや太平洋・東南アジア諸国には専門知識・リサーチ技術・当該分野の計画／政策立案技術等の移転、各国の専門家間のネットワーク構築に対するニーズがあり、本研修は、これらのニーズに応えるものである。しかしながら、講師の中からは、同分野についての学術的な研修内容と参加者の研修に対するニーズは、必ずしも一致がみられなかったとの指摘もあった。一方、参加国のリプロダクティブヘルスに関する専門的なニーズを詳細に記載した文書等の資料はなく、研修参加国のニーズをより厳密に把握し、研修コースの目標と目的が再設定されるべきであったと思われる。</p>	
<p>(2) 有効性 過去の研修参加者やその上司に対するアンケート調査・グループインタビューによれば、期待されていた効果は達成されている。帰国した研修参加者へのアンケート結果によれば、65.0%が研修内容を「ほぼ理解した」、27.5%が「ある程度理解した」としている。しかし、研修の目的と実際の研修内容の不一致や調査・分析手法に関する研修時間の不足などを指摘する声もあり、受講者の満足度やカリキュラムの適正度に関する評価は必ずしも高くない。</p>	

(3) 効率性

研修参加者の自国での担当業務や知識レベルは非常に多様であり、研修コースの目標や目的に照らして適切な参加者が選定されたとは言い難い。短期間の集団研修コースにおいては、より効果的な技術移転のために、研修対象者の特定とともに、研修科目や対象技能の絞り込みが必要だと思われる。一方、IPSRの講師については、人口計画およびリプロダクティブヘルス分野における専門知識や技術を十分有していた。

(4) インパクト

4年間に19カ国から75名が研修に参加し、その84.0%が人口・リプロダクティブヘルス分野の業務に携わっている。研修コースは、リプロダクティブヘルス分野のアドボカシー（権利擁護の主張）について取り上げており、受講生の意識の高まりが見られた。しかし、それぞれが単独で自国の現状を改善することは難しい。例えば、アンケート調査によると、学んだ知識を自国で普及させていると答えた研修参加者は91.3%に上るが、その中でセミナーや講習会のような公式な場でこれを行っている者は、僅か33.3%に留まる。また、本コースの帰国した研修参加者のフォローアップシステムが構築されていないため、研修参加者間（各国・自国間）のネットワークを発展させる機会がなかった。

(5) 自立発展性

組織的には、IPSRは、人口社会調査研究所はマヒドン大学傘下の独立機関であり、大学の学部と同等の権限を与えられている。多くの専門分野にわたる職員を有しており、研究員・教員の9割が博士号を持っている。財政的には、タイ政府から直接の経済的支援を得ていない。本研修の費用はJICAとタイ技術経済協力局が負担している。当初の予定では、徐々にタイ側の費用負担率を拡大する予定であったが、経済危機の影響でこれは実現していない。

一方、研修参加者の多くは移転された技術を今後の業務に活用する意向を持っているが、予算や人材の不足、及び政策立案者の当該分野に対する理解の不足のため、なかなか日常業務に活用することはできないと指摘している。

3-2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

本研修は、家族計画からより全体的なリプロダクティブヘルスアプローチへのパラダイム転換を喚起する、ICPDの実施計画を実行するものであり、研修コースは、研修生の視野を広めるだけでなく、基礎的な調査やプロジェクト実施のためのキャパシティビルディングの機会も提供した。

(2) 実施プロセスに関すること

人口計画・リプロダクティブヘルス分野におけるIPSRの専門知識や技術、また国内外の当該分野専門家とのネットワークが、研修の質を確保するために重要な役割を果たした。

3-3 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- 1) 合同調整委員会は、プロジェクト責任者レベルで特別に話し合いの必要性が生じた場合のみ開かれたため、研修コースのモニタリングや発生した問題への対応を協議する定期的な事前・事後ミーティングは開催されなかった。
- 2) 短期間の研修コースとしての目標及び目的が明言されておらず、また、会得した技能やネットワークのフォローアップシステムも確立されていなかった。
- 3) 人口計画・リプロダクティブヘルスは、幅広く多岐に渡る問題を取り扱う学問であるため、本研修では短期間に多くの分野の知識・技術移転を試みた。この結果研修内容が表面的になり、技能の向上も限定された。

(2) 実施プロセスに関すること

- 1) 研修参加者の選定基準が明確でなかったため、研修参加者の学歴・専門分野・英語のレベル・調査の経験や技能が多岐に渡り、研修の効率性を下げた。
- 2) 原則として研修参加者は各国から1人としたため、各国に与えるインパクトの大きさが限られた。

3-4 結論

該当なし

3-5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

- (1) 各国のニーズをより的確に把握するための調査を徹底する必要がある。
- (2) 研修コースの目的を明確にし、それに対応したカリキュラムを作成する必要がある。
- (3) 研修参加者の属性・ニーズを限定し、効率的に研修を実施するため、明確な研修参加者選定基準を作成するべきである。
- (4) 外交ルートを通じた研修参加者募集には時間がかかることを見越し、募集要項の配布は研修開始の180日前（従来は60日）に行うべきである。
- (5) JICAは合同調整委員会の機能を再確認し、モニタリングや研修実施中に発生する諸問題に適宜対応できるようにするべきである。
- (6) 研修終了後に参加者を支援するためのフォローアップシステムを確立する必要がある。
- (7) プロジェクト管理の面で相手国に対する助言・支援をするべきである。「プロジェクトサイクルマネジメント」の手法を紹介することは有効であると考えられる。

3-6 教訓（他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

- (1) 人口計画およびリプロダクティブヘルスは幅広い分野や問題を取り扱う学問であるため、短期間の研修コースですべてを取り上げることは現実的ではない。短期間の研修コースでは、若者の健康、生殖器官感染、ジェンダーとセクシャリティ、計画的な出産、健康な妊娠など、特定のリプロダクティブヘルス分野のキャパシティビルディングを目指すことが妥当であると考えられる。
- (2) 短期研修コースは全日程を市内ホテルで実施することが望ましい。講師や管理スタッフも一緒に滞在すること

で、効率的な実施が可能となる。

(3) 通常教育機関のプログラムは知識と概念の重要性を教えることに重点がおかれているが、実務に直結した研修は、技能会得に重点を置くべきである。

3-7 フォローアップ状況

該当なし